

管轄森林管理局・署	関東森林管理局 日光森林管理署
所在地	栃木県 日光市
面積	174.68ha
設定年	1978(S53)年
保護林の概要 (設定目的)	男体山の噴火によって川がせき止められてできた湿原で、学術上貴重である。湿原の大部分はヌマガヤ、オオアゼスゲ、ワタスゲなどが生育する中間湿原により構成され、ヒメゴミスゲが厚く積もった高層湿原は湿原の中央部付近に成立している。生育している植物は350種類にも及ぶ。このため、高層湿原、中間湿原を形成する群落の希少な個体群を保護するため設定する。



モニタリング調査概要

実施年度	2007年、2012年、2017年、2022年
調査項目	樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査等
調査手法	森林詳細調査として、湿原内を通る木道沿いに2つの調査ラインが設定されており、木道上から目視による植生調査(ベルトランセクト)を実施した。
結果概要	森林調査について、湿原内の構成種や被度群度について大きな変化は見られず、外来種等の侵入や乾燥化の影響も見られないことから、概ね良好な状態で維持されていると評価される。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。